

# 令和2年度(2020年度)熊本市病院事業運営審議会 議事録

- 1 開催方法 書面審議
- 2 資料発送日 令和3年(2021年)2月9日(火曜日)
- 3 議事録 次のとおり

## (1) 令和2年度(2020年度)熊本市病院事業運営審議会の成立について

令和2年度(2020年度)熊本市病院事業運営審議会については、例年どおり集合開催を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催方法を再考することとなった。

再考の結果、オンライン会議を開催するため日程等を調整していたが、令和3年(2021年)1月13日に熊本県独自の緊急事態宣言が発令され、同月20日に熊本市市民病院内でクラスターが発生したことを受け、院内において対面での会議を控えることとした。

オンライン会議の開催にあたっては、オンライン対応ができない委員や事務局側の職員は集合する必要があったため、集合を避けつつ審議会を開催する方法として、書面審議を開催することとなった。

熊本市病院事業運営審議会運営要綱第7条第2項の規定に基づき、議事の概要を記載した書面を審議し、意見書を提出した委員は、出席したものとみなす。

今回、委員6名全員から意見書が提出されたため、同要綱第6条第2項に規定する定足数(委員の半数以上)を満たし、審議会は成立。

### ■熊本市病院事業運営審議会委員

山田 一隆 委員  
豊田 徳明 委員  
本 尚美 委員  
森 美智代 委員  
藤木 美才 委員  
武石 美友子 委員

以上6名

## (2) 会議資料について

- ア 資料1 熊本市病院事業運営審議会会長及び副会長の選出について  
イ 資料2 令和元年度(2019年度)決算について  
(決算の状況及び病院事業会計の決算概要(熊本市市民病院会計・植木病院会計))  
ウ 資料3 熊本市市民病院の診療状況について

## (3) 意見内容について

### 資料1 熊本市病院事業運営審議会会長及び副会長の選出について

#### 意見照会事項

会長及び副会長について、事務局案のとおり選出してよろしいか伺います。

【事務局案】会長：山田 一隆委員、副会長：森 美智代委員

#### 資料1に対するご意見・ご質問等

【全委員】事務局案のとおり選出を承認する。

資料2 令和元年度（2019年度）決算について

意見照会事項

令和元年度（2019年度）決算について、ご意見・ご質問等をお願いいたします。

資料2 に対するご意見・ご質問等

【委員】

平成28年（2016年）熊本地震により、熊本市市民病院では厳しい状況が続き、稼働病床数も激減している。しかし、令和元年（2019年）より外来患者数や入院患者数の増加がみられ、稼働病床数も少しずつ増加しており、今後の診療の拡大が期待される。

今後、地域医療機関との連携強化による診療の活性化を行い、全病床の稼働を成し遂げていただきたい。

【委員】

熊本市市民病院は、平成28年（2016年）熊本地震から建て替え後で入院患者数が増加したが、コロナ禍により令和2年（2020年）2月から収益減となった。延べ患者数が昨年度比408.6%増となっているが、例年との比較は困難である。令和2年度（2020年度）もコロナ禍のなか、院内スタッフの方には頑張ってもらいたくしかない。

植木病院は診療科再編により入院延べ患者数の増加につながったと思われる。引き続き頑張ってもらいたい。

【委員】

特に質問等はなし。

【委員】

病院事業収支の推移をみると、平成28年（2016年）熊本地震に見舞われ、その被害が平成29年度（2017年度）以降の営業状況に影響を及ぼし、経営の不振につながったと考える。しかし、令和元年（2019年）を機に経営状況に回復の兆しが見えてきていると判断する。

業務の状況において、熊本市市民病院では、入院・外来延べ患者数の増加や診療単価の上昇に伴い、診療収益も上昇している。さらに、収益的収支では、本業の医業収益の上昇がみられる。しかし、費用の増加もあることから、令和元年度（2019年度）の純損益はマイナスとなっている。

今後は災害復旧の損失を「医療の質を担保した、さらに患者が満足できる収益の獲得につとめ、その収益で費用の増加を賄う」ことにより、次第に経営の回復が期待できると考える。患者の医療サービスに対する満足に、病院側がうまく対応することが、収益につながると考える。

震災や新型コロナ禍等で不測の状況に見舞われ、医療現場は大変な状況であると考え。そのような状況下で、医療経営の当初予算に対してマイナスの数値が発生するのは、避けられないと考える。

平成26年度（2014年度）決算では、企業会計基準の導入で退職給付引当金の設定等によりマイナス経営に陥る事例が多いなか、平成25年度（2013年度）までは累積欠損の解消につとめていると判断する。通常の医療が行われ、軌道に戻ることを願っている。

**(ご質問)**

1 医療経営における資金不足は、どのような状況でしょうか。

**※事務局回答**

資金不足とは、流動負債が流動資産を上回っている状況のことで、経営状態が良くないことを表します。資金不足額は流動負債から流動資産を控除して求めるため、資金不足額がマイナスであれば、資金不足ではないということになります。

2 熊本市民病院における病院事業会計の決算概要に「その他特別利益」が計上されていますが、これは補助金でしょうか。もし補助金であれば、利益として計上して返済はしなくてもよいのでしょうか。

**※事務局回答**

平成 28 年（2016 年）熊本地震後、診療の制限を余儀なくされたため、看護師等の職員が本庁の震災復旧業務や他医療機関に派遣され研修業務にあたりました。「その他特別利益」には一般会計が負担すべき熊本市民病院職員分の人件費負担金や他医療機関での研修費用、さらには平成 28 年（2016 年）熊本地震で被災した市民病院に対する寄付金、保険会社からの地震見舞金などが計上されております。また、ご質問にあります補助金につきましては平成 28 年度（2016 年度）に約 1 億 9 千万円、平成 29 年度（2017 年度）に約 6 千万円を受入れております。当該補助金につきましては、返済は不要です。

**【委員】**

**(ご質問)**

植木病院の経営状況（収益）が改善しており、その要因として診療業務を拡大した旨が記載されていますが、具体的にはどのようなことでしょうか。医師数が 3 名増加しておりますが、このことでしょうか。また、増加した 3 名の医師の診療科は何でしょうか。

**※事務局回答**

収益改善の理由としては、医師の体制が平成 30 年度（2018 年度）の 10 名体制（内科 4、循環器内科 1、外科 3、整形外科 1、脳神経外科 1）から、12 名体制（内科 4、循環器内科 2、外科 2、整形外科 3、脳神経外科 1）へと増加したことがあげられます。増加した診療科は、外科で 1 減はあったものの、循環器内科、整形外科で合計 3 名増加となりました。

また、令和元年度（2019 年度）は新院長のもと、植木病院再生計画（5 か年）を策定し、積極的な経営改善に取り組んだ結果、これまで実施できていなかった心臓カテーテル、整形外科をはじめとする手術件数の増加や入院稼働率が上昇したことなどにより、医業収益面での増収に結びつきました。

**【委員】**

業務の状況について、入院・外来ともに前年度に比べて診療単価は上昇している中で、高度な診療技術が提供されていると確信した。

公的病院の役割を果たし、今後も市民の健康を守るためにご活躍をお祈りしたい。

資料3 熊本市民病院の診療状況について

意見照会事項

熊本市民病院の診療状況について、ご意見・ご質問等をお願いいたします。

資料3 に対するご意見・ご質問等

【委員】

新型コロナウイルス感染症対策を始めとして、救急診療、NICU 入院患者、GCU 入院患者等に対する熊本市民病院ならではの重要な診療提供は継続しており、今後のさらなる診療の拡大が期待される。

【委員】

コロナ禍の状況で、例年の収益とは比較できないが、1 日平均入院は 7 月より 300 名/月、NICU は 18 床でほぼ満床、さらに新型コロナウイルス感染症患者の受け入れも中等重症者で 30.9～12.1 人/日と、熊本市民病院としての役割は果たしていると思われる。

【委員】

新型コロナウイルス感染症への対応では、36 床と多くの病床を運用され、感染症指定病院として大きな役割を果たしている。その状況のなか、外来患者数の増加や高い病床稼働率も維持されている。特に、NICU・GCU については、ほぼ満床の稼働状況で、熊本県内での重要な役割を担っているのがデータからも確認できた。

【委員】

12 月以降の感染患者の受け入れに貢献しており、公立病院としての役割を果たしていることが感じられる。

【委員】

(ご質問)

資料3 は令和 2 年 (2020 年) 4 月～12 月の期間で間違いないでしょうか。

※事務局回答

お見込みのとおりです。

【委員】

外来受診患者数は順調に増加しており、地域に根付いた安定した病院である。市民からは、熊本市民病院が再開 (診療開始) したことで「体調が悪くなったら熊本市民病院の先生に診てもらいたい」との声も聞かれた。市民の期待に応えるべく、一層の努力をお願いしたい。

※その他、全般的にご意見等ございましたら、ご記入くださいますようお願いいたします。

**【委員】**

新型コロナウイルス感染症患者受け入れによるスタッフの疲労心労は、想像を絶するものと思われる。可能であれば、熊本市長から労いの言葉をいただけるとありがたい。

**【委員】**

昨年から新型コロナウイルス感染症が発生し、感染病棟のほか東病棟の病床を提供して感染者の受け入れ対応をしている。昨年から現在まで、熊本市の感染者増加に対し、感染症専用病棟を運用されていることに感銘を受けた。

**【委員】**

**(ご意見)**

本年は新型コロナウイルス感染症拡大のためやむを得ないですが、担当者から資料の説明があるとより良かったのではないかと思います（オンラインでも構いませんので）。

**※事務局回答**

本年の審議会につきましては、例年どおり集合開催を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催方法を再考することとなりました。

再考の結果、オンライン会議を開催するため日程等を調整していましたが、令和3年（2021年）1月13日に熊本県独自の緊急事態宣言が発令され、同月20日に熊本市民病院内でクラスターが発生したことを受け、院内において対面での会議を控えることとしました。

オンライン会議の開催にあたっては、オンライン対応ができない委員の方や事務局側の職員は集合する必要があったため、集合を避けつつ審議会を開催する方法として、書面審議を開催することとなりました。

次回の審議会は、まずは集合開催またはオンライン会議での開催を目指しており、開催した際は担当者から資料の説明をいたします。やむを得ず書面審議となった場合も、資料の説明書を作成する等して、分かりやすい説明に努めて参ります。

**【委員】**

診療開始して落ち着いた頃に新型コロナウイルス感染症が広がったが、専用の感染症病床もあり、すぐに活躍できる熊本市民病院を見ていた。病院側の対応はとても大変だったと思うが、きちんと受け入れ対処されていると感じた。私は一委員だが、審議会委員に選任されたことを誇りに思った。

ワクチン接種が始まったが、私たち市民は不安でいっぱいである。自らが感染予防し、近い将来収束することを祈っている。今後もますますのご活躍をお祈りしたい。